『総合政策論叢』第31号（2016年３月）
島根県立大学　総合政策学会

［研究ノート］

新しい時代の劇場とは何かについて改めて考える

大　橋　敏　博

1　はじめに
2　夜よりも昼の時代か
3　低価格の実現
4　ジュニア、それより小さな子どものための活動支援
5　高齢者演劇集団
6　高校での活動の支援
7　市民に向かって要求を明らかにすること
8　知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）、能勢町浄るりシアター（能勢人形浄瑠璃）、島根県芸術文化センター（グラントワ）（益田糸あやつり人形）の活動
9　若手でかつ３年間で育成、ボランティア活動の整理
10　終わりに代えて

1　はじめに

地域の文化施設の数が増え、これが文化施設の在り方の多様化に大きく影響している。しかしそれだけではない。地域の文化施設に対する感情にも変化が見られるようにもなってきた。地域の文化施設に対して多様な対応が取られてきたこと、施設の多様化とともに文化への参加拡大があり、これにより公演も夜よりも昼を選び、あるいは低価格ということを選ぶ者が増えるとする劇場もある。子どもの公演やジュニア等の育成すること、また、市民に向かっていろいろなことを要求するようにもなってきた。このような動きの中で新しい時代の劇場とは何かについて改めて考えてみたい。

劇場が少数の専門家のためにあることが変わってきたこと、それだけ劇場の数が多くなり多様化が図られるようになってきた。もちろん劇場も多様であり、伝統的なスタイルで前の時代の姿を維持しているものへ行くことは可能であり、そのような途を取るものも多い。しかし、このような劇場でも少なくとも新しい今の時代を生きて行くことが必要となってきている。

これは一部だけだと思われていたのが、最近の様子を見ていると急に全国的にも広がってきたのだと思われるようになってきた。例えば、アウトリーチ活動（演奏家が自ら学校、福祉施設などで出かけ、身近な場所で聴き体験して貰う活動）も非常に盛んとなってきている。これも昔の形では例えば小学校、中学校に行くだけで足りたものが、もう単に行くだけでは足らなくなくなってきている。するとそこで、小学生、中学生が何を知らないでいるのか、あるいはどのように考えているのかなどを小学校教員、中学校教員に助けを求

めつつ考えることも行われ始めた。多くの人の参加拡大により演奏の前に曲の解説等を行うこと等は今や多くの劇場で盛んである。我々は常に劇場で使われるような数々の曲を知っている訳ではない。このようなことから言えば、非常にありがたい企みである。また、従来は活動が単に夜型から昼型へと移りつつあることも例が見られる。（もちろん夜型のところはある。）もちろん劇場であるので、多様な劇場があり、実に様々な対応が取られるもので、どういうコースを取るかはその劇場に委ねられている。

今回この論文では、第２章で夜よりも昼の時代か、第３章で低価格の実現、第４章でジュニア、それよりも小さな子どものための活動支援、第５章で高齢者演劇集団、第６章で高校での活動の支援、第７章で市民に向かって要求を明らかにすること、第８章で知立市文化会館（パティオ池鯉附）、能勢町浄るりシアター（能勢人形浄瑠璃）、島根県芸術文化センター（グラントワ）（益田糸あやつり人形）、第９章で若手でかつ３年間で育成、ボランティア活動の整理、で劇場の活動の現在の姿を取り上げ、終わりに代えてで新しい姿を求めて各劇場がその多様な姿を追ってゆくべきことなどを明らかにしたい。

２　夜よりも昼の時代か

彩の国さいたま芸術劇場は埼玉県営の施設であり、首都圏の代表的な劇場の一つと見られている。彩の国さいたま芸術劇場のアクセスを見ると、JR埼京線与野本町駅（西口）下車で徒歩７分、新宿からは快速で27分、各駅停車で40分、大宮からは快速で４分、各駅停車で６分となっている。新宿から30分以内といえば、東京では都心にそう遠くはないところということができる。

こういうところでも、公演では昼を重視する傾向があるようになってきている。ここでは、彩の国さいたま芸術劇場の「ご紹介」に「芸術監督」（演出家蜷川幸雄）の言葉があり、「シェイクスピア全作品を上演するシェイクスピア・シリーズを1998年から続けています[1)]」とあるように、シェイクスピアの全作品を公演に載せようとするプログアムがあり、平成27年では31作品目が上演されることとなっている。

彩の国さいたま芸術劇場では蜷川幸雄演出により行われたシェイクスピア第28弾『ヴェニスの商人』（市川猿之助主演）では、全20公演中15公演が昼に行われるものであり、しかも始まるのが13時で、公演終了も16時頃。平日の昼間の公演は８公演であることから、この公演では平日の昼間もその中心となっている（平成25年９月５日（木）から平成25年９月22日（日）までの公演）[2)]。

公演時間というのは、観客の都合によって選ばれるのが通常の例となっている。こういう公演だと、夜の食事づくりに間に合う。なお、５公演行われる夜公演の始まりは、18時30分。13時の開始というのは何故だろうかと思い、公演を見たが、その公演は平日の昼間であり、観客の相当部分が女性であった。蜷川演出が話題となっているが、このように女性人気が高いものがあることが解る。また、13時開演というのは若干時間が早いように感じられるが、このようなお客もいるであろうということである。

31作品目の『ヴェローナの二紳士』では、14：00及び18：30の公演となっている。時間等の関係で言えば、上演時間（開始、終演）は観客の都合に合わせて設定されるのが通常であるが、人気のある演劇ということになれば、その時間が若干ずれることもあるのであろう。ただし、時間の点で問題があるとすれば、多くの企業の社長等が述べているように、

「アサヒビールなど競合に気を取られ、お客様を見ていなかったのではないか。病巣は深い。」（荒蒔浩一郎著『私の履歴書』日本経済新聞、平成27年９月28日）などの指摘が真実としてある。

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、我が国では数少ない４面舞台の代表的な劇場であり、オペラではその機能を生かした作品を提供している。また、ラ・フォル・ジュルネびわ湖「熱狂の日」音楽祭などでも多くの観客を集めている。この中で、びわ湖ホール声楽アンサンブルは、ホール専属の声楽家集団として毎年、定期公演を行っている人気のある例である。毎年行っている人気の公演（ここでは子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』）を、平成25年度ではホームグラウンドのびわ湖ホールで上演している。

平成25年10月12日（土）の中ホール公演『泣いた赤鬼』の開演が、① 11：00開演と② 15：00開演（上演時間約１時間）の２回公演となっている。これは昼の時代の代表的な公演である。

公益財団法人びわ湖ホール舞台芸術基金（平成25年度報告書）の理事長あいさつによれば、平成23年に創設した舞台芸術基金が平成23年度から25年度までの３年間の累計で1,840万円を超える寄付を集め、平成25年度のびわ湖ホール声楽アンサンブルの公演『泣いた赤鬼』『オペラ・ガラ・コンサート』の上演に300万円が充当されている[3)]。

東京文化会館では、小ホールで５月29日（金）11：00－12：00に『創遊・楽落らいぶ Vol. 30 ― 音楽家と落語家のコラボレーション』（出演：落語　桂文治、ピアノ・作編曲 佐山雅弘）と題する公演が行われており、前半はミニコンサート、後半は音楽入りの落語で行われており、これの回数も30回となっている[4)]。この種の公演は既に30回もの公演が行われたところである。このように昼の公演は観客を集めるために大事なものとなっている。

3　低価格の実現

低価格の実現というのは平日の昼間に時間のある人に向いている。こういうことを考えると、中小都市の方に多そうであるが、大都市部では演奏家が多く存在しており、その人口からすれば平日の昼間に時間のある人は多く、また各分野の聴衆も育っているということができる。このように考えれば、大都市部は将来の芸術への振興の点から言えば、大きな市場を形成している。大都市部で大学等の若手が育ってゆく場所が多く、将来が有望と思われる若手芸術家が多く存在している。

大都市部では若手の育成を考え、東京文化会館などは東京音楽コンクールを主催しており、若手演奏家を育てようとしている。そして、このような若手芸術家はモーニングコンサート、ティータイムコンサート等での演奏家として育っている[5)]。

東京文化会館では、４月22日（水）11：00～12：00モーニングコンサートVol. 84 梅田智也（ピアノ）、５月13日（水）11：00～12：00　モーニングコンサートVol. 85 田原綾子（ヴィオラ）、７月21日（火）13：30～13：40　ティータイムコンサートなどを実施している。ここで「Vol. 84」とは、モーニングコンサートの84番目を示しており、それが常態化していることを示している。

4　ジュニア、それより小さな子どものための活動支援

最近の劇場では、ジュニアオーケストラなどの試みをしているところも少しずつ増えて

いるが、さらにそれよりも小さな子ども向けの公演も新たに始まっている。なお、ジュニアオーケストラで有名なトリフォニーホール・ジュニアオーケストラでは、小学生４年以上高校３年生まで（平成27年４月現在）というような条件づけを行っている。

また、すみだトリフォニーホールでは、人気のあるトリフォニーホール・ジュニアオーケストラがあり、その人気を生かして『ようこそ！誰でもコンサート』（平成27年８月４日（火）開演10：00）と題して赤ちゃんも、障害のある方も、未就学児も…みんなみんなを対象としてコンサートを開催している。入場料は、小学生以上で大人も含め500円である。これは、より多くの人が大衆となることから意図的に安くしているものと思われる。なお、翌日（８月５日（水））には『夏休みオーケストラコンサート』（入場料：大人1,000円、高校生以下無料）としてジュニアオーケストラの通常の公演を行っている。

第一生命ホール（東京都中央区晴海１-８-10）は、東京都中央区にあり高層マンションが急増し、小さい子どものいる家庭が非常に多いことから小さい子どものためのコンサートを実施している。第一生命ホールのアクセスは非常によく、次のようになっている。都営大江戸線勝どき駅、下車徒歩８分、東京メトロ有楽町線・都営大江戸線月島駅、下車徒歩15分、都営バス線、晴海トリトンスクエア前、下車徒歩４分である。

ここで面白いのは、小さい子どもがいることを前提にした公演が行われることである。平成27年９月26日（土）14時から開催された子どもを連れてきてクラシックとして売り出された『音楽と絵本コンサート　くものすおやぶんとりものちょう』はまさに子どもを連れてきてクラシックという名目通りのコンサートとなった[6)]。この公演での入場料は、大人（中学生以上）2,000円、子ども（４歳以上）1,000円で、この公演の趣旨を生かしたものであった。これはスクリーンに投影した絵本に朗読と生演奏がつくものである。ここで着目したいのは、子どもの年齢層である。ここでは４才以上が「子ども」として入場料が必要と言うことである。本コンサートがこのような「子ども」に焦点を当てたいことを示している。

5　高齢者演劇集団

高齢者演劇集団は、各地で活躍し、話題となっている。ここでは老人らしく台詞を覚えられない等で大いに盛り上がっている。我々の仲間がやった行為であり、少し位の失敗などは気にしないのである。高齢者演劇集団はこの事実（台詞を忘れやすい）だけでも十分に存在の価値があったのが、最近はその数を増すに連れて変化も生じている。この高齢者演劇集団のなかでも「八老劇団」はユニークである。八老劇団は高齢化社会が進行する中で、一般社会の人々にも長寿社会の幸せとは何かを知って貰おうとして、60才以上の人で構成する劇団（大阪・八尾市）で昭和48年に創設された。

八老劇団は、『河内版　ベルサイドのばら』（初演：平成10. 11. 23. 八尾市文化会館プリズムホール）で、八老劇団がマリー・アントワネット王妃のために河内音頭を披露するとの公演であった。ここでは「オンドレ」（主人公の名前）（河内弁で「おまえ」）を意味する。）等の言葉が次々と出てくるものであったが、平均年齢71才の高齢者劇団で台詞間違いや台詞忘れは当然で、アドリブで誤魔化したり、黒子が出て行って役者に大声で教えたりとしていたが、それでも観客が笑ってくれていた。劇団員の一生懸命さがこのような公演を生んだのである。なお、八尾市文化会館プリズムホールのこけら落とし公演『河内版

ベルサイドのばら』では、公演は無料であったが、1,400人入るプリズムホールは満員となった[7)]。

なにしろ平均年齢71才の高齢者劇団であるので、長時間演じるのは難しい。10分ほどの時間で前後に踊りや歌を入れたものが中心となっている。八老劇団の紹介で出張公演の例が挙がっているが、これによると、子ども会、高齢者クラブ定例会、老人会の定例会、社会福祉の諸施設慰問、商店の開店祝いなどであり、公演は無料、謝礼も原則としてボランティア活動であり無料となっている。

高齢者演劇集団を見ていると、若返りたいという高齢者の変身要望を満たせるのは演劇であることがよく解る。最高年齢は、川西美恵子さん（大正11年９月１日生まれ）で平成27年10月１日現在で93才。彼女は、この劇団の本人紹介文に、大阪の下町で育ったが、小学校で、文楽、落語、漫才、柳家金語楼、エンタツアチャコ、などいろいろと見せて頂いた、とある。最近は地域のことを良く知ろうとのことで、地域の演芸等を見せることも多くなったと言えるのであろうが、93才の方がこのようにいろんな演芸等に親しんでいたのである。

彩の国さいたま芸術劇場では、平成17年11月に芸術監督に内定した蜷川幸雄が年齢を重ねた人々が身体表現という方法によって新しい自分にであう機会を提供するため高齢者劇団を提案した。平成18年４月当初20人の募集枠に1,200名を超す応募があった。ここで55才から最高齢80才までの48名が所属する「さいたまゴールドシアター」は、演出家・蜷川幸雄の下で平均年齢75才の高齢化演劇集団として発足したが、それは高齢の役者が年齢を上げるだけではなく、これが平均75才の演劇かと驚くようなものであった[8)]。また、この劇団のメンバーは、国内での公演を重ね、外国へも出掛けるようになったのである。

平成25年５月～６月ではフランス・パリ日本文化会館大ホールで全４公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』[9)、10)] を開催し、平成26年11月では香港への公演「新視野藝術節 New Vision Arts Festival 2014」に参加し、全３公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』を実施した（会場：葵青劇院演藝廳）。また、同年12月、フランス・パリで同演目を実施し、全５公演を実施（会場：パリ市立劇場）したところである。

6　高校での活動の支援

この他、河口湖ステラシアター（吹奏楽高校生国内トップチームによるフレンドシップコンサート）が平成27年８月15日（土）14：00に開催され、習志野高等学校吹奏楽部、伊奈学園総合高等学校吹奏楽部、伊奈高等学校吹奏楽部で実施し、入場料大人（1,500円）と高校生以下（600円）はそれぞれ安い料金で公演を実施している[11)]。なお、習志野高校では、およそ1,000人の高校生がいるが、そのうち吹奏楽部の高校生が200人以上いる代表的高校界の吹奏楽部として音楽の世界では有名である[12)]。習志野高校の場合は外形上は音楽高校のように音楽に熱を入れているようには見えないが、このように知っている者にとっては大きな意味があるのである。なお、この演奏会の直前には習志野高校吹奏楽部によるマーチイングパレード演奏会があり、このような機会に全国のトップを見たいとする観客を楽しませている。

なお、平成25年の習志野高校吹奏楽部の第51回習志野高校吹奏楽部定期演奏会は習志野ホール（入場者数1,475席）で３回公演し、料金もS席1,800円、A席1,200円、B席600円と

なっており、11月30日（土）、12月１日（日）に渡って公演が実施されている。

『週間朝日』の増刊号で『2015年第97回全国高校野球選手権大会　甲子園』（平成27年８月10日）と題された雑誌があり、これで代表49校の戦力データが解る。ここで各校の部員数という項目があり、これによれば代表49校（北海道及び東京都がそれどれ２校でその他は１校）で、１チーム平均すれば87名となっている。なお、100名を超える学校は、13校（岩手・花巻東、宮城・仙台育英、福島・聖光学院、栃木・作新学院、埼玉・花咲徳栄、山梨・東海大甲府、滋賀・比叡山、広島・広島新庄、鳥取・鳥取城北、島根・石見智翠館、高知・明徳義塾、長崎・創成館、鹿児島・鹿児島実、沖縄・興南）であり、最高は155名（高知・明徳義塾高校）であった。この数字が一般的にも正しいと仮定すれば、習志野高校でも野球部員数が200名を超えるようなことは通常はなく、吹奏楽部の部員数が高校野球の部員数上回っていることになる。野球の場合は練習場等の関係もあり、恐らく155名というのは最大規模であろう。

7　市民に向かって要求を明らかにすること

大都市部は先に述べたように人口が多く、従って一部と言ってみてもその人数は相当程度に上る。大都市部で様々な公演プロが存在し、公演ができていることがそれを裏づけている。しかし、そういう大都市部だけでなく、中小規模の都市でもその都市が持っているものを生かして様々なものが生まれてきている。

足利市民会館では、足利ユースオーケストラ、足利ミュージカル、足利オペラ・リリカ、足利カンマ－オーケストラの４つが置かれており、多くの市民の支援を要請し、一人一人の小さな支援を求めている。この中で、１コインサポーター（500円）、特別・サポーター（個人3,000円、団体5,000円）という制度があり、一人一人の力は弱いが、これで市民の力を結集し、大きな力となるようにしている。１コインサポーターでも、例えば足利ユースオーケストラの場合、足利市民会館ホームページで名前を掲載し、定期演奏会プログラムに名前を掲載されることとなっている。これは、足利市が151,350人（平成25年８月現在）と中規模の都市とは言えないような面白い試みである。

足利ユースオーケストラで興味深かったことは、開演が16時でその40分前の15時20分よりロビーコンサートがあり、そこで春から団員となった者も含めて紹介があり、演奏も聴けたことである[13)]。春から新たに団員となった者のうちには、必ずしも十分に楽器が弾けないものもいる。

8　知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）、能勢町浄るりシアター（能勢人形浄瑠璃）、島根県芸術文化センター（グラントワ）（益田糸あやつり人形）の活動

愛知県知立市は、江戸時代中期から人形浄瑠璃やからくり人形が行われており、文楽保存会については山車で行われる三人遣いの人形浄瑠璃という珍しい形で上演されてきた。

また、知立のからくりについても、町の人々の手によって作られ浄瑠璃に合わせてからくりだけでものがたりを上演する珍しいものであった。なお、知立山車文楽・からくり保存会の公演は、平成27年７月５日（日）14：00から行われ、会場は花しょうぶホールで、入場無料となっている。知立では町の人々の助けにより物語が上演されてきたという長い歴史があって入場無料となっているのかも知れない。

なお、知立の公演内容を見ると、14：00からは「伊達娘恋緋鹿子（だてむすめこいのひがのこ）」火の見櫓の段、14：30からは「平治合戦（へいじがっせん）」、15：00からは「傾城阿波の鳴戸（けいせいあわのなると）」巡礼歌の段、15：30からは「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」、16：00からは「傾城阿波の鳴戸（けいせいあわのなると）」十郎兵衛住家の段となっている。

大阪府能勢町は大阪府の最北端に位置し、浄瑠璃が盛んで地域の文化づくりを担い、能勢の浄瑠璃として無形民俗文化財として保護されてきた。平成５年には「浄るりシアター」がオープンし、平成25年には一座の名称を「能勢人形浄瑠璃鹿角座」として公演を行ってきた。浄るりシアターは、大阪から約１時間の距離にある。能勢電鉄の山下駅からタクシーで約15分である。

平成27年６月27日（土）、28日（日）に能勢人形浄瑠璃鹿角座の公演が能勢町浄るりシアターで行われ、人形浄瑠璃及び素浄瑠璃が行われ、入場料（大人）は3,000円であった。なお、能勢人形浄瑠璃鹿角座は、能勢町以外では大阪・森ノ宮ピロティホールでの公演を行っている[14)]。

島根県益田市に糸あやつり人形が伝わったのは、明治20年ごろといわれる。当時、東京浅草の糸あやつり人形芝居が益田に糸あやつり人形芝居を伝えたという。この人形芝居は、人形操者、太夫、三味線、後見の４役で上演され、地は義太夫節である。

島根県芸術文化センター「グラントワ」他で公演が行われるのが年３回である。入場料は３回とも無料となっている。なお、公演終了後は、益田糸あやつり人形体験ができる。例えば、平成27年７月20日（月・祝）13：30開演、益田糸操り人形保持者会の公演がグラントワ（小ホール）で行われた。

この章の関連では、何かの理由で入場料を無料とする場合があるが、この無料の公演をいつまで続けるのかというのが、問題であろう。本来入場料は本来の場とは別に公演するのであれば、無料であるばかりでは成り立たない。それがホールのような特別の公演の場であれば、いずれにせよ入場料が必要になるはずである。ただし、公開を無料とするような支援が行われていることも考えられる。

9　若手でかつ３年間で育成、ボランティア活動の整理

兵庫県立芸術文化センターでは、他の劇場とは違った試みがなされている。つまり、兵庫芸術文化管弦楽団（PAC）楽団員は主として35歳以下の若手演奏家（プロ）で構成しており、オーケストラのレパートリーを最長３年間で学び、実践するのである。これは、他のプロのオーケストラであるところから見ると、なかなか困難であるように見える。実際、あるオーケストラに定年までいることとすると、そこには新しい変化、困難、チャレンジというからは離れてしまうことになりがちにもなるであろう。

最大の問題は、兵庫芸術文化管弦楽団を離れる時に新しい就職先を見つけることができるかどうかという点である。20代、30代からなる若いオーケストラだとプロとしての実績を高めることが必要になる。これは兵庫県立芸術文化センターでは、定期演奏会、特別講演、室内楽演奏会、わくわくオーケストラ教室、楽団員の中からアンサンブルを編制してアウトリーチ活動としていろいろな場所での演奏会、センター事業への出演（オペラ、バレエ、ジルヴェスターコンサートなどを実施。）等で楽団員の力を伸ばす活動を実施してい

る。

佐渡裕指揮の兵庫芸術文化センター管弦楽団の定期演奏会では特に満員となることが多い。これらが佐渡裕芸術監督の人気と合わさって、兵庫芸術文化センター管弦楽団のメンバーとなったものにも関心が高まり、その好感度を上げている。その関係では、例えば、兵庫芸術文化センター管弦楽団の定期演奏会の場合、チケットがなかなか手に入らない場合があるが、これも兵庫芸術文化センターの会員（無料）となれば、先行予約会員（他の入手方法に比較して１日だけ早く予約することができる。）としてチケットを手に入れることができる。

私も兵庫芸術文化センターの成果を見て、何がそんなに効果を上げているのかと思ったことがあるが、これらはセンターの関係者が何とか兵庫芸術文化センターを良くしようとしているところにあるのではないかという点にある。こういうものが理由となって、全体としては兵庫県立芸術文化センターのイメージを上げている。これによって例えば、薄井憲二バレエコレクションが兵庫芸術文化センターで年間を通じて公開されるのも、この種のものではなかったのかと思わせる。これは、個人の記録として見るとバレエの始まりから現在までをカバーする総数約6,500点に上るような、個人が収集したものとしては有数の規模のものである。

島根県立芸術文化センター（グラントワ）では、（ボランティア）にいろいろ作業等を任せており、その種類の多さは、映画、イベント、クリーンアップ、生花、発送、情報発信、放送、神楽衣装、ワークショップ、フロント、ギャラリートークの11種に及んでいる。最初にこの数を見た時、資金が十分ではないため、こんなに多くのボランティアを用意したのかと思ったところである。この中で、生花（花の生け込みと花材の提供等）、クリーンアップ（グラントワの周辺の広場、法面の除草、ゴミ拾い活動等）、映画（グラントアシアター（毎月１回）の企画、運営、宣伝）などはどういうものかと気になるところであった。ボランティアの人の興味などに触れることがなかったが、グラントワ応援団通信というものがあり、毎年号数は違うがこれでボランティアのことが解る。自宅からたくさんの花を持参するとの記事が応援団通信にあり、花を自宅から持参するのである。

また、広い庭を綺麗にするときの贅沢な時間はないという。ボランティアに応募するときから、趣味のなかった人に死にかけていた細胞が動き始めたそうである。こういう気分が在るとしたら、それは本当に大切にしなくてはならない。また、ボランティア同士でも他のメンバーのことは余り解らない。これらのため、応援団通信でイベントボランティアがどんなにものを作成し、売ったことがあると応援団通信で記載している。

映画のボランティアは予定していた映画がアカデミー賞外国語映画賞を取って、上映回数を増やすなどの変更を取ったことなどを知らせている。なお、島根県立芸術文化センターではグラントワボランティア会会則を定めてそれをグラントワのHP上で明らかにしている。これはボランティア活動そのものを整理し、明らかにするもので価値があるものである。

10　終わりに代えて

これまで見てきたように地域にある文化施設は、その地域により持っている意義が異なる。例えば、あるところで有料にし、あるところでは無料となるのもあるのは、何かその

点に関してこういう点が在るからなのである。このような多様な現実があるので、自分のところの現実とはどのようなものなのかをよく考えないといけなくなっている。これをしないで単にどこかで成功しているのを見るというのは、その地域の独自の判断を見失うことになるのではないか。また、地域にある文化施設はそれぞれの特色を活かして自由にいろんなことがやることが出来よう。しかし、その責任は各地域での文化施設側にあり、つまりその地域での住民の同意があって初めて文化施設側がなし得るものである。

ここ杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」[15] では「劇場創造アカデミー」というものがあり、ここでは２年制で演技コース、舞台演出コース、演劇環境コースなどのコースを学ぶこととしており、主な就職先としていわき芸術文化交流館アイオス、久留米市市民文化部、杉並区立杉並芸術会館　座・高円寺、穂の国とよはし芸術劇場PLATなどが上がっている。

このなかである人の１週間のバイトなどの様子を紹介している。また、座・高円寺では様々なアルバイト募集があり、これを明らかにしている。その様子は、グラントワとは違い、こういう時にはアルバイトを使い、有償で行うべきだとしている。これは、明らかにグラントワのボランティア活動の様子とは異なる。座・高円寺では劇場創造アカデミーと云うものがあり、アルバイトで遣っているものもいるのに違いない。このような場合、アルバイトで代金を出すのが通常であろう。お金を必要とし、その人が座・高円寺で学んでいるとすれば、当然そういう考慮が働く。このようにアルバイトでもその資金を必要とするものがいるのかどうか、さらに資金を出す余裕があるかどうかでも、アルバイト代金の意味が違ってくる。

地域の文化施設はその数が多くなり、その多様性に伴い実に複雑なものとなってきた。地域の文化施設に対して、よく見ると多様な感情も生じてきている。こういう複雑な感情の中で、自分のところの現実を見なくてはならない。地域の文化施設で自分のところなりの解決策があり得ることを見せなくてはならない。このように地域の文化施設は多様化が進んでおり、今後一層の多様化の中でどのような対応を取るのかなどその現状をさらに見て行きたいと考えている。

注

１）なお、ここでは続けて「シェイクスピアといえども上演頻度の少ない作品もあります。それらも含めて全作品を上演するということは、公共劇場だからこそできる大事な役割です。」とある。（「彩の国さいたま芸術劇場のご紹介」中の「芸術監督ごあいさつ」）なお、31作品目は『ヴェローナの二紳士』（演出：蜷川幸雄、出演：溝端淳平、三浦涼介、高橋光臣、月川悠貴など）である。

２）この公演を私は彩の国さいたま芸術劇場で（平成25年９月９日（月）13：00開演）に見たところである。

３）公益財団法人びわ湖ホール　舞台芸術基金（平成25年度報告書）によれば、平成25年度寄付総額が11,045,773円であり、びわ湖ホール声楽アンサンブルへの支援が3,620,000円となっている。なお、ここで開演が昼の２回となっていることに関しては、この公演がびわ湖ホール開館15周年記念であり、また、『泣いた赤鬼』が子ども向けであったことがその一因をなしているのであろう。

４）桂文治　昭和61年４月十代目桂文治に入門、平成11年５月真打 昇進。平成24年９月十一代桂文治襲名。なお、この前後には、平成27年２月26日（木）Vol. 29　三遊亭遊雀（落語）、平成27年10月13日（火）Vol. 31　春風亭柳橋（落語）が並んでいる。

５）梅田智也（ピアノ）：第12回東京音楽コンクールピアノ部門第１位及び聴衆賞受賞。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程在学中。

田原綾子（ヴィオラ）：第11回東京音楽コンクール弦楽部門第１位及び聴衆賞、桐朋学園大学音楽学部在学中。

ティータイムコンサート：柳原佑介（第９回日本木管コンクール第１位）、中川愛（日本木管コンクール　コスモス賞（聴衆賞））（いずれもフルート）（東京都交響楽団メンバーによるフルート二重奏）

６）出演するのは、クァルテット・エクセルシオ［小林朋子／山田百子（ヴァイオリン）　吉田有紀子（ヴィオラ）　大友肇（チェロ）　古部賢一（オーボエ）　小坂圭太（ピアノ）　飯原道代（朗読）］である。クァルテット・エクセルシオは、地域コミュニティや学校での活動にも力を注いでいおり、平成６年桐朋学園大学在学中に結成。平成８年第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」受賞。古部賢一は、東京芸術大学卒業後、ミュンヘン音楽大学大学院修了。新日本フィルハーモニー交響楽団首席オーボエ奏者。小坂圭太は、東京芸術大学卒業、同大学院修了、第54回日本音楽コンクールピアノ部門入選。飯原道代は、桐朋学園演劇専攻を卒業。第２回、第３回新劇俳優協会最優秀賞を連続受賞。

７）『高齢者劇団不惑超え輝く』浜田澄子（八老劇団主宰）（平成26年９月15日（月）日本経済新聞）

８）平成27年２月現在のさいたまゴールドシアター団員は64才から89才までの39名。

９）清水邦夫作、蜷川幸雄演出、井上尊晶演出補。

10）さいたまゴールド・シアターの上演作品紹介の「公演プログアム　蜷川幸雄あいさつ文」に「平均年齢74才の高齢者が、時代によって消耗されることを願った演劇が、本当の高齢者が演じることで再生することが可能なのかを実験しようとしている。」とある。こういうところでも、高齢者演劇集団の多様化、本格化の様子が見て取れる。

11）私もこの公演（平成23年８月18日には、習志野高校、片倉高校、春日部高校により実施。）を河口湖ステラシアシターにおいて聴く機会がった。

この年、習志野高校は甲子園での全国高校野球選手権大会に出場し、当日は１年生に甲子園応援をまかせて公演は２、３年生による演奏となった。なお、習志野高校は野球でも夏の全国高校野球選手権大会で昭和42年、昭和50年に優勝している名門校であるが、野球部以上の人数を吹奏楽部が集めている。

12）習志野高校HPによれば、正確には次の通りである。習志野高校学生数：963人（平成25年５月１日現在）、習志野高校吹奏楽部部員数：215名（平成25年５月現在）。

13）私はこの公演（平成25年８月25日（日））に行き、この公演を聴いたが、公演前にこのような紹介をしてくれるような、暖かい環境の中でどのような子ども達が育つのかと感じた次第である。足利ミュージカルの平成25年度サポーター募集のちらしでは、「本年５月、栃木県内『初』となる公立文化施設・専属プロフェッショナルミュージカル劇団として『足利ミュージカル』が発足予定です。『足利ミュージカル』の活動は、１年をとおして身近に質の高いミュージカルをお愉しみいただく機会を提供するだけでなく、学校や福祉施設等へのワークショップ等様々な活動を展開し、ミュージカルをとおして市民ならびに地域皆様の日々の生活に活力と潤いをもたらし、夢と希望のある、まさに文化的生活の実現を目指していこうというものです。そこで、『足利ミュージカル』の活動について、多くの市民の皆様をはじめ地域の皆様のご理解とご支援をいただきたくサポーターを募集いたします。市民ならびに地域皆様の手によって大きく成長させていただければ幸いです。よろしくお願い申

しあげます。」となっている。

14）平成27年８月28日（金）、開演午後18：30、大阪・森ノ宮ピロティホール、入場料3,500円。

15）杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」の指定管理者NPO法人劇場創造ネットワークは自治体政策のコンサルタント、公共劇場の運営・制作者、劇場技術者、俳優など、各分野の専門家等によって平成17年７月に設立された。

キーワード：新しい時代の劇場　低価格の実現　高齢者演劇集団

（Ohashi Toshihiro）